

コトデザイン



「デザイン」——最近、特に私たちの日常生活で頻繁に使われ始め、よく耳にする言葉の一つではないでしょうか。本県においても、「熊本・明日へのシナリオ」の地域ごとの推進計画を“県土デザイン編”と名づけるなど、「デザイン」を県の活性化に役立てる施策をうちだしています。少々気どった響きも感じられた「デザイン」も、今や私たちの暮らしに密着したものになっています。

魅力ある田園文化圏を創造するためにデザインはどう機能し、どういう役割を果たしているのでしょうか。

機能・コストと暮らしもあるデザイン

「デザイン」は広辞苑に依ると「意匠計画。生活に必要な製品を製作するにあたり、その材質・機能・技術および美的造形性などの諸要素と、生産・消費面からの各種の要求を検討・調整する総合的造形計画」とある。デザインという、つい形のみ、表面のみの問題と考へがちだが、実際には、その機能や、生産・消費面の要求にもこたえるトータルなプランというわけだ。

ではなぜ今、デザインの時代と言われるほどデザインの重要性が説かれているのだろうか。まず生活面で人々は「モノ」の量的充足を覚え、次に質的充足、さらに心を充足させる快適で潤いある生活を求め始めたということ。環境面では、居住環境の整備が進み、潤いと調和のとれた職・住・生活環境に対する要求が高まっていることなどが、その背景にある。つまり、現代をより快適に暮らすために

機能し、役立つものがデザインというわけだ。元来、熊本県人は質実剛健を旨とし華美なことをよしとしない気風を持っていると言われる。一方、「わさもん」の言葉が表すように進取の気質もあわせ持つ。「デザイン」うわべ、飾り」という誤った認識がもしあればそれを捨て、機能やコストとともにあるデザインという視点にたてば、これをうまく活用する素地がその県民性に十分にあるのではないだろうか。

熊本県では、産業デザインの振興、一次産業の産品化などデザインの付加価値による地方間競争力の強化に取り組んでいる。広範囲に及ぶデザイン活動だが、その中からKD21（くまもと産業デザイン協議会）、熊本県商品計画センター、熊本県景観条例について見てみよう。

デザインを視点に

熊本らしい熊本を創造

—KD21(くまもと産業デザイン協議会)

KD21(くまもと産業デザイン協議会) (会長・東政美熊本大学教授) は、昭和六十二年、デザインという視点から、「熊本らしい熊本」を創っていくことをめざして設立された。

現在、デザイナーや企業の経営者、教育者等、デザインに大きな関心を持っている人達約百三十人が参加し、お互いに情報を交換しながら豊かで、素敵な暮らしを実現している。



くまもとデザインフェア'99